



浮かない春

春の甲子園では、何と山梨学院が優勝。山梨県勢としては勿論初めての優勝。山梨県勢はベストエイトに残ることも稀で、1回戦を勝てば上出来というのが話を聞いたほとんどの皆さんの反応であったが、あれよあれよという間に勝ち進んで決勝にまで進出し、そして勝利。一戦ごとに経験を積んで強くなっていったとしか考えられない▼昨年10月のサッカー天皇杯では、J2で18位のヴァンフォーレ甲府が優勝。とにかくJ1ではなく、J2のチームが「三冠」の一つである天皇杯を獲得するとは、誰も想定外であり、まさに奇跡。このようにこのところ、スポーツの世界では山梨県勢の活躍がきわめて顕著であり、快挙続きで県民の意気は大いに盛り上がっている▼ところが農業の世界はまた別で、春本番を迎えても農民の顔は冴えない。ブドウ生産量日本一の山梨県ではあるが、ここ数年、収穫時期に畑からぶどうを盗まれる事件が続発し、年々盗難は増加傾向を辿っている。このため防犯カメラや警報装置を設置するぶどう畑が急増しており、ぶどう畑そばの農道を歩くと、警報が鳴るのはしよつちゅう。光線がピカピカ光ることも多く、ゆつくり散歩することもかなわなくなりつつある▼筆者の畑のある牧丘町は、この数年でぶどうは巨峰からシャインマスカットへの転換が急で、生産量の首位は巨峰からシャインマスカットへと移行。シャインマスカットは相場も堅調で収益性も高く、ぶどう農家の懐を潤してきた。ところが「シャインマスカット、花が咲かぬ怪 15県で確認 減収でも『原因不明』」との先日の日本農業新聞の報道に戦々恐々▼ちようど春祭りの時期ではあるが、コロナとぶどうの不安を抱え、祭りも今一つ活気に欠けて見える。

(土着菌)